

地域コミュニティバスを中心とした人・まち・環境にやさしい バス利用促進事業実証実験(埼玉県三郷市)の概要

(実施期間: 14年3月 ~ 16年1月)

背景

- ・三郷市内のバスは、路線長の長い路線が多いため定時運行が困難なことや、一部の地域を除いてバス不便地域が多く、過度にマイカーに依存
- ・マイカー依存が高いことから、主要な交差点での交通渋滞対策や、沿道の環境対策が必要
- ・鉄道駅周辺道路や駅前広場に送迎マイカーが集中することによる渋滞対策、安全対策が必要

サイクルアンドバスライドの整備・充実、違法駐停車対策等を実施するとともに、地域コミュニティバスの運行等バスの利便性を高めることで、自動車からバス、自転車への交通行動の変更を促すことによる道路混雑緩和効果等を検証

申請主体: 埼玉県三郷市
実験参加事業者:
東武バス、飯島興業、メイトー観光、
白石運輸
主な実験内容

1. サイクルアンドバスライドの整備・充実
6ヶ所・500台を、13ヶ所・800台に
7ヶ所・300台の増設、車利用の削減を図る
2. 違法駐停車防止指導、交差点改良の実施
3. 交通規制、信号調整、通行区分帯の
見直しの実施
4. 地域コミュニティバスの運行:
新規路線4路線、既存路線1路線の5路線を運行
5. 既設路線の改善: 路線再編、増便を実施

関係行政機関等によるTDM実証実験への
支援(関東運輸局、関東地方整備局、埼玉県
警察本部)

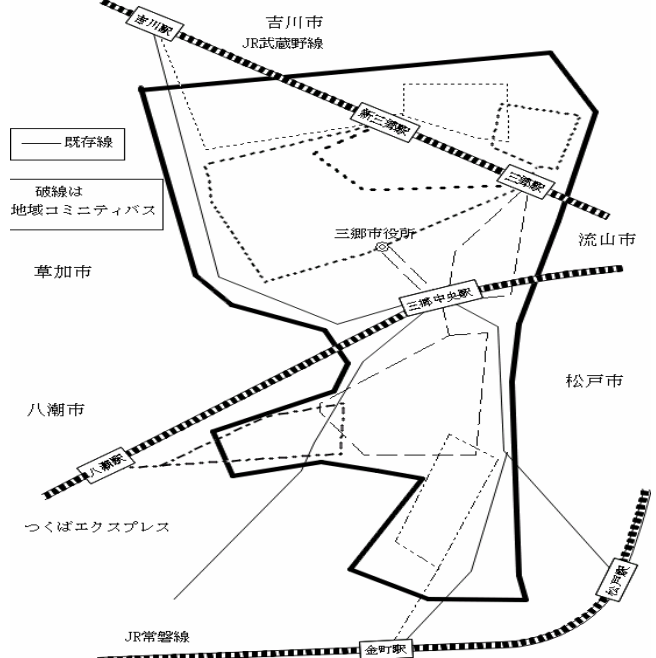
地域コミュニティバスとは

三郷市民の鉄道駅への指向が5つの駅に分かれていることに着目し
各コミュニティ内を、きめ細かく回り、高頻度に短いルートでの最寄りの鉄道駅にアクセスするバス

1路線の設定だけでなく、複数路線を運行し相互に連絡することによって、全体として一つの公共交通サービスを展開するシステム
昼の運行だけでなく、6時から23時頃まで運行し、通勤通学もカバー

地域コミュニティバスのイメージ (つくばエクスプレス開業後)

・複数の地域コミュニティバスのネットワーク化を図り、ひとつの公共交通サービスとして展開



実験の成果

マイカーからの変更が21.4%、タクシーからの変更が8.2%であり、概ね3割が自動車からバスへ変更、自動車利用の減少が確認できた。
主要交差点での渋滞の減少効果を確認することができた。最も減少した交差点では約50%削減された。

実験後の状況

実験に参加した各路線とも本格実施となっている。
実験終了後においても、5カ所の違法駐停車防止重点地域を中心とした、路上駐停車防止活動に努めている。
実験に参加した事業者のうち1事業者は、バスの保有台数を4台増車しさらに充実を検討している。他事業者についても増車を計画中であり、路線バス事業の充実を図ることとしている。